

熊本市駐車場適正配置検討委員会〈第八回〉

1. 日時および方法

令和6年3月27日（水）午前10時00分～午前11時40分

2. 出席者

（1）委員（13名） 円山委員長、岡村委員、増永委員、西嶋委員、平野委員、黒木委員、藤田委員、柳邊委員、櫻田委員、上田委員、岩永委員、玉野委員、井上委員（今村代理）

（2）事務局 市街地整備課：寺尾課長補佐、山下主査、福田主事

3. 議事

（1）開会

（2）議事

■中間報告のご意見報告

■まちなか駐車場の在り方について

議題1 駐車場の外縁部（外側）への誘導について

議題2 歩行者優先エリア（内側）に必要な駐車場について

（3）閉会

4. 議事の概要 （発言者） ○：委員 ●：事務局

■まちなか駐車場適正化計画について

- 熊本市は、将来の都市像として、多角連携都市の実現を目指しており、中心市街地では中心市街地ランドデザイン2050やまちなか再生プロジェクトなど様々な取組を進めている。
- 交通の観点では都市交通の最適化ベストミックスを推進している。
- 歩いて楽しめるまちの実現に向け、駐車場の観点から都市交通の最適化を推進すること、駐車場をコントロールしこれからのまちづくりに生かすための方針を示す役割をもつ。
- 三つの基本方針に基づき8つの施策を推進している。
- 第2期の委員会では、集約駐車施設の整備に対する財政支援共通駐車券導入についてご議論いただいていた。

■まちなか駐車場の在り方について

- まちなかの立体駐車場を外縁部に誘導し、中心部の自動車を減少させ、人中心の都市空間形成を推進。
- 将来像の議論を深めるために、(仮称)ウォークアブルビジョンの策定を進めている。
- 駐車場は、「車の流れ」「人の動き」「土地利用」等に影響を与えるまちづくりの重要なパーツ。

■議題1 駐車場の外縁部（外側）への誘導について

- 調査結果からの推定
立体駐車場は、時間貸駐車場の利用が低下しており、平面駐車場は月極駐車場の需要が増加しているのではないかと推定される。
- 外縁部の立体駐車場整備に対する財政支援について検討をしてきたが、現在策定を進めている(仮称)ウォークアブルビジョンとの整合を図り、歩行者優先エリアの設定をしつつ、外縁部への誘導を促進したい。
- 審議事項 外縁部への立体駐車場の整備（財政支援）よりも既存の活用による外縁部への誘導を優先して進めるか
- 論点1 段階的に外縁部の既存平面駐車場も活用するか
- 論点2 外縁部での既存駐車場の活用アイデア

【議題1に対する質疑応答】

■方針の転換について

(円山委員長)

- 大きな方針転換について説明された。外縁部の立体駐車場整備に対する財政支援よりも既存の活用をした方が良いのではないかという方針。

(西嶋委員)

- この委員会は、駐車場について議論する委員会だが、実際は様々な移動という現象があり、中心市街地エリアで、駐車場をどういう位置づけにしていくなかということも議論している。
- 中心市街地での人の移動が今後どうなっていくのかという上位概念に基づいて、駐車場の在り方は方向性が見えてくるものだと思う。
- 上位概念的な説明は、中心市街地ランドデザインに盛り込まれた、まちなか再生プロジェクト等としているが、短期と中長期で見たときに、まちなかでの物と人の移動をどう再デザインしていくかを方向づけ、それを駐車場の観点からうまく具現化するために、どういう施策が必要なのかは、上位の計画と関係があると思う。
- 様々な社会情勢が変化しているため、上位概念の方針も変更し、委員会でその見直しを示してもらえると、委員からも非常に理解が得やすいと思う。庁内全体で整合性を図っていただくことが、この委員会の役割をさらに充実させるものになっていくと思う。

- 今までのご意見を踏まえ、(仮称)ウォークアブルビジョンを検討している。これに基づき、まちなかの移動の変化を見据えて、将来の姿を中長期的に示し、それを支えるための駐車場の在り方をこの委員会で示し、ご議論いただくことが本筋と思っている。
- (仮称)ウォークアブルビジョンを策定するに当たって、都市建設局だけでなく、他部署との勉強会の開催や、庁外の民間事業者の方や自治会の方々とも意見交換を進めているところで、来年度中を目標にビジョンを定めようとしている。
- その中で検討していく内容と駐車場の委員会で検討する内容を連携させながら、また、この委員会で提示できればと考えている。

(円山委員長)

- 庁内外と連携したビジョン策定の議論はすごく重要だが、今回の論点は、少し曖昧な部分もあるため現実的に最近の情勢も踏まえて考えてもらいたいところ。
大きな論点について、反対はないのではと思っている。

(岩永委員)

- 外縁部という言葉の定義が市民の方も含めて、理解されているのかどうか。
- 足が不自由な方や高齢の方、歩きたくない方はどうしても中心部にバス、車で行くことを選ぶ方が多いが、それは仕方ない話である。
- グリスロやチャリチャリなど、一般の方が分かるようなメリットを生み出す施策を含めて初めて既存駐車場の活用となると思うため、バスも含めた、移動円滑の促進を図っていただければと思う。
- 駐車場だけにかかわらず一番の課題は渋滞であると思うため、その辺も含めて解決していくための議論をさせていただければと思っている。

(円山委員長)

- 外縁部からまちなかまでのアクセスをいかにしやすくするかという話についてどう整理しているか。
- この計画で対象とする外縁部は、まちなかの縁。外縁部というと、パークアンドライドの考え方もあるが、この委員会で対象としているものは、まちなかのすぐ近くを示す。
- 外縁部の駐車場からの移動手段については、外縁部の駐車場から移動が難しい方や歩きたくない方もいるため、様々なニーズにどう対応していくのかという課題はある。
- 現在、チャリチャリやグリーンスローモビリティが走行しているが、スムーズに導入できるかという懸念はあるものの、連携しながらまちなかの移動を円滑にしていきたいと考えている。

(増永委員)

- 駐車場協会は、直接事業に関わる場所もあるため、非常にいろんなことを危惧していたが、おおむねいい方向に向かっているのではないかと感じる。
- 調査の結果は、月極駐車場が増加しているというより、時間貸駐車場が成り立たなくなっている、やめていっているという状況であるため、立体駐車場が減り、平面駐車場が増加しているという推定をされているが、開発はある程度行っているため、月極の需要が増加しているわけではないというところは勘違いがないようにお伝えしたい。
- まちなかだとある程度の需要はあるが、積極的に需要が増加するような状況ではなく、時間貸駐車場、特に立体駐車場に関しては、事業者も非常に苦戦している状況であることは間違いないと思う。
- 今回の話は、ある意味積極的に活用していこうという話であるため、ありがたいところもあるが、外縁部の定義については、駐車場事業者側からするとあまりはっきりしてほしくないところでもある。
- 都市施設として既にあるものはできるだけ活用し、その上で、徐々に誘導していくのが方向として一番よいのではないかと。
- よく駐車場が渋滞の原因みたいなことを言われるが、決してそんなことはないというふうに認識をしている。

(円山委員長)

- 交通渋滞に関して様々な対策をとるというアプローチが必要と思う。
- データに加えて実態を踏まえての検討をすることは非常に重要。

(岡村委員)

- コロナを経た現状であるため、現時点では十分駐車場が足りており、平面駐車場を活用するという方向だと思うが、長期的、中長期的に見た場合、需要が徐々に増加する傾向にあると思っている。
- 平面駐車場は他への転換が容易な土地でもあるため、景気が回復したら、新しい建物を建てるなど、平面駐車場は変動しやすいバッファーのように考えておくのも良いのではないかと。
- また、将来的に平面駐車場を転用するための制度作りのきっかけになるのではないかと考える。
- 財政支援は、一切なくなってしまうのか。長期的な視点では、財政支援をするという意向を残しておくのか。
- 歩行者優先エリアと外縁部での人の流れのイメージがあるのであれば、歩行者優先エリアの利用者をセクションして、その方以外は料金を高くするような、様々な料金の差別化の方法があると思うが、そこまで踏み込む意図は持っているのか。
- 外縁部に一般車を誘導するという方針には変更がないため、今後、需要の増加や、技術の進展など、将来的なことも見据えながら、対応策として立体駐車場の建設も必要だと考える。

るため財政支援をなくすものではないと思っている。

- 外縁部への誘導アイデアについて、料金が一番のインセンティブとして働くため、そういったものはすごく有効だと思う。移動しやすさの視点もあると思う。
- 外縁部に停めてもらうための方法は様々にあると考えるため、今回いただいたご意見等を踏まえて、取り組みや予算等を検討させていただきたいと思っている。

(円山委員長)

- 民間事業者が運営する駐車場の料金を行政から指示して変えることは簡単ではないため、様々な工夫が必要なところだと思うが、料金の操作がインセンティブとして一番効いてくるところ。

(西嶋委員)

- どういう移動に変えていこうかという話だから財政支援の必要はないと思う。
- マイカーを使わない移動にしたいという話であれば、外縁部であっても駐車場の建設に対して支援するというのはどうなのか。
- 事業性に基づいて駐車場は設置されているため、外縁部であっても、需要が高まるところには、立体駐車場建設の可能性が事業性として高まる。
- 外縁部も含めて丁寧な議論、施策を講じて、移動の仕方が転換されるところに、より財政支援を手厚くしてもらいたいのでは。
- 平面駐車場は大きな投資を伴わず、簡単にできるが、立体駐車場は大きな投資が必要なため簡単にやめたりつくったりできない。
- 短期と中長期で財政を何に使うかという分かれ道の議論に当たっていると思う。

(円山委員長)

- 財政支援はこの計画の中に書いてあるもので、消すという判断はできないと理解しているが、長期的には今後の計画の見直しの段階で意思決定することがあると思う。

(西嶋委員)

- 今議論している駐車場は、カーシェアや自動運転などのサービスによって、マイカーを減らすことができるため、そういう転換に対して財政支援をするなど、駐車場の整備だけの財政支援でなく、中身をもう少し明確にして方向を変えると話がかみ合う施策を展開できるのではないか。

- 財政支援を消すということは、今は考えていない。

(西嶋委員)

- 今後進めていかなければならないのは、全体像として、移動をどう変えていくかということである。
- 移動をどう変えるかというときに、一般車を外側に回して減らしていくという大きな流れは変わらないが、今後は、社会情勢の変化によって一般車以外の車もその対象となる可能性があると思う。

- 誘導したい方向へ推進するための財政支援は必要だと思うため、今後もニーズや社会情勢のへ変化を捉えながら検討すべきものだと考えている。

(円山委員長)

- 新しいヘモビリティへの財政支援は、長期的にも考えていくべきだというまとめになる。

■論点①②について

(円山委員長)

- 外側の駐車場にとめたら、チャリチャリやグリスロの料金が安くなるような取組は、すぐには難しいと思うが、今後の検討としてはどうだろうか。
- チャリチャリなどの移動手段を置くポートとしての活用アイデアはすごく良いと感じたため検討したいと思う。

(岡村委員)

- 城めぐりんのルートを複数にし、域内循環パスが外縁部を回る形で増設すると楽しいまちづくりに資すると思う。既存の資源をより活用するためにそういったものを上手く使っていくことも良いと思う。
- そういった部署との連携などは、現在している、もしくは今後対応する予定があるのか。
- ウォーカブルビジョンも駐車場の計画でも必ず、交通部門と密接に連携をとりながら進めていかなければと思っている。

(増永委員)

- いつなくなるか分からないものに対して、活用案を適用するのは非常に疑問を感じるため、外縁部の平面駐車場の活用は、一定の条件を付加する場合（台数など）以外は、必要ないのではないかと考える。
- 活用のアイデアは、外縁部付近で管理している自社の駐車場にチャリチャリのポートがあるが、かなり高稼働している状態のため、若者はチャリチャリでの移動でも違和感が無いのだと思う。
- 高齢の方や身障者の方等の移動も含めてどうするかが課題として残るため、その辺を上手くつなげると、外側にあるものを活用することになると思う。
- 10年以上前にまちなかで自由に動けるようにというコンセプトで駐車場間を結ぶバスをやっていたが、当時は、利用率が上がらずやめることになった。これからであれば、お客様もいろんなところに動きやすくなり、高齢の方も喜ばれるのではないと思う。

(岩永委員)

- 運転手不足が一番深刻な課題。城めぐりんやまちなかループバスも運行休止や廃止となっている。

- 市は土日にまちなかを周遊するような形態を重視していると思うが、バス事業者としては、運転手不足の中で生活交通である通勤通学を優先せざるを得ないという背景がある。
- そのため、まちなかだけを周遊させるようなことが出来ない状況であるが、周遊バスの活用がうまくいった場合には、この話はつながってくるかなという認識をしている。
- なかなか現状を打開できない状況があるため、チャリチャリやその他のもので結んでいかざるを得ないという状況だと思う。

(円山委員長)

- バス事業者は運転手不足が深刻化しており、待遇を改善するといったことをしていないと打開が難しそうであるため、今できることをしっかりやっていくということと思う。

■議題2 歩行者優先エリア（内側）に必要な駐車場について

- まちなかには高齢者や障がい者、妊婦、歩行が難しい方、荷さばきの駐車場や観光バスの乗降場などの駐車場が必要だが、駐車場の運用形態ごとに利用者が異なるため歩行者優先エリア内に、どの利用者の駐車を受け入れることが望ましいのかを整理したい。
- また、今後のまちなかでの移動の変容を考慮し、まちなかと外縁部の移動手段を円滑にするモビリティの駐車場の確保も進めることが必要であろうと考えている。
- 施策の展開によって利用者が徐々に外側に停めるという駐車の方法になじんでいく変容が生じるといいのではないかと考えている。
- 審議事項
歩行者優先エリアに受け入れることが望ましい対象者とは、またそれを受け入れるに際して必要な駐車場とは

■スケジュールの見直しについて

- 今後、スケジュールの見直しも視野に入れていきたいと考えており、内側については駐車場の多様な使い方を促進する、荷さばきのルール化の推進ということを掲げていきたい。
- 外側については既存の立体駐車場の活用方法を考えていくというスケジュールで進めていけたらと考えている。

【議題2に対する質疑応答】 発言者 ○：委員 ●：事務局

(今村代理)

- 歩行者優先エリアの駐車場を増やす取組について、民間事業者に対して、障がい者や育児をしている方の駐車を優先的にとお願いしても、優先であれば一般の方々も停めることができる状況になるため、この発想自体、実現可能なのかどうなのか、先が見通せないのではないかという不安がある。

(円山委員長)

- 身体障がい者など明確なユーザーが分かる場合は、様々なコントロールができそうだが、そうでない場合はなかなか難しいのではないかと感じた。

- ハートフルパスを持っている方を優先的に停める駐車場の確保などが該当すると思う。
- 方法は二つあり、条例で駐車場の確保について最低限の設置を義務付けする。
- もう一つはインセンティブとして、必要な駐車場の確保に対して支援をする制度を作るということが行政としてあり得ると思う。

(平野委員)

- 車を利用して運転している障がい者という立場で経験をお伝えする。
- 最近、障がいを持つ人が停めるスペースは、広くなければならないという認識が少しずつ増えてきているが、大きな車がハートフルパスなしでその区画に停める状況もある。
- 管理する人がきちんとチェックをする駐車場などもあり、しっかり目が届くようになってきているが、絶対数が足りないため、そこを事業者がどういうふうに今後取り組んでいくのか、そこにインセンティブが必要なのかと思うことがある。
- 自分で運転する身体障がい者だけでなく、家族に障がいの方がいたり、小さい子供がいる場合、高齢の家族がいる方にもハートフルパスは出る。
- 最近、立体駐車場の各階に1、2台ずつぐらい整備されているが、まだ足りない。ハートフルパスで管理できる状況が増えてきている現状と、台数の不足という課題が組み合っていないと感じるため、そこをどうにか誘導していく方法があればと思う。

(上田委員)

- まちなかでの渋滞がそもそもの問題であるため、その緩和が本来必要なのかと思う。
- マンションなどは、宅配の際、目的地付近に停めると切符をきられることがあるためどこに停めてよいのかを明確に示してもらうような対応が必要と考える。
- 商業施設に荷物をおろすための荷さばき場のルール化をしてもらい、そこにとめて運ぶことは良いと思うため、推進してもらいたい。
- 熊本市内を配送する業者は、トラックのみを停車させておくことが難しいため、人手不足の中でも1人が運転席に乗って待機、1人が配送しているような現状である。
- そういうところをご理解いただきながら、車の誘導の流れを、検討してもらえるとすごくスムーズになるのではないと思う。
- ハートフルパスを持っている方の駐車場枠についても確保できるのであれば確保を推進してあげたほうがいいと思う。

(円山委員長)

- 荷さばき駐車場の改善は、2024年問題解決にもつながるという話や配送環境への対応も必要になってくるという話をいただいた。
- ハートフルパスや駐車マスを増やすような取組については他部署との連携も含めて検討すべきではないかと考えている。

(増永委員)

- 配送を行うトラックドライバーの方々が、駐車料金を払って配送するという形態はありえるのか。
- 人手不足やコストが上がっている状況で駐車料金を払うという話になると、コスト負担が厳しいことになるのではと思った。

(上田委員)

- 自社で言うと、引っ越しの下見や引っ越しの際に、目的地近くに駐車するが、駐車スペース不足や場所的に停めることが難しいなどという声を聞く。
- 配送するために駐車場を利用しないと駐車違反になってしまうため、料金を支払うことは仕方のないことだと思う。
- ワンマンドライバーの駐車場がないエリアへの配送で困っている。

(円山委員長)

- 2名のドライバーを1人にできるだけでもだいぶん変わるものだと思う。

(西嶋委員)

- 歩行者優先エリアを、どういうものと考えていて、中長期的には、どう充実させようと思っているのか。まだ場所が特定されてない段階で、細かい議論が本当にできるのか。想定するものが示される中で、現場に合ったルールづくりをする必要があるため、この2点をしっかり示していただかないと充実した議論ができないのではと思う。
- 並行して検討を進めているウォークアブルビジョンの中で、アーケードなど、既に人がたくさん滞在しているエリアを軸に、歩行者優先エリアを設定していきたいと考えている。
- どのような移動をし、どのようなエリアにしていくのかについても、ウォークアブルビジョンの中で検討していきたいと思っている。
- エリアを設定することで、歩行者の増加や賑わいの創出、地価の向上、出会いの増加によるイノベーションなどの効果を期待して取組を進めていきたいと考えている。
- エリアを想定するときは、エリア内の生活者やワーカー、来訪者、地権者、事業者が共同して、将来ビジョンをどう描いていくかということが非常に重要で、ビジョンの検討と伴走しながら、概念の整理をし、それがどう変わっていくのかという方向性をセットで議論するような方法でやっていただきたい。

(円山委員長)

- 現段階で歩行者優先エリアの境界を決めることはできないため、本日の議論は考え方や概念が中心となるが、それだけではいけないため、将来、詳細を詰めて2段階に分かれたところで議論していくのかなと思ったところ。

(増永委員)

- コインパーキングがたくさんまちなかの中心部にあるため、そこに車が入ってくるのはいかなものかという話はよく分かり、それをできるだけ少なくしていく方向性は何と

なく感じ取れるが、実際はなかなか難しいのではないかと思います。

- 歩行者優先エリアに必要な方は、搬入の事業者や身体障がい者の方、高齢者の方のようなイメージになると思うが、その方だけしか入れないエリアをつくると、事業性として成り立たず、駐車場としては非常に厳しいため、一般の方もとめられるような駐車場になるだろうと思う。
- 歩行者優先エリア内での駐車は料金が高いというイメージをつけられると良いが、それをいかに誘導するかがすごく難しいと感じる。
- ダイナミックプライシングのような考え方もあるが、停めている人が、途中で料金が変わったかどうかということを見ると1日単位ならできるかもしれないが、時間貸として運営している以上なかなか難しい。
- 新しい技術も含めて、様々なことを考えながらこのエリア内は検討していかなければならないのではないかと思います。

(岡村委員)

- エリア感を大きく示されると、この広さは無理だろうと感じるため、絶対車を入り込まないようにしたい場所を示してもらう方が議論しやすいと思う。
- 上通り下通りアーケードのような歩行者のための空間が既にあるが、それ以上にもっと広げるのか、もう少し広げていくつもりであれば、駐車場はこうしたらいいのではという議論ができるのではないかと。
- 世界の町で歩行者優先といっている町は、とても狭いエリアを指しているということをお伝えしたい。

(西嶋委員)

- 歩行者優先エリアは、優先だから車を排除するエリアではない。
- 実態と中長期的な将来像をもう少し整理して示してもらうことで、議論しやすくなる。
- 歩行者優先エリアでなく、狭いところは歩行者優先だが、車の利用の仕方を変えるエリアというような言い方ができると良い。

(円山委員長)

- 歩行者優先エリアは2段階ぐらいに分かれるといいのかなという印象を持った。

(岩永委員)

- 歩行者優先エリアとすれば、車が入れないエリアと思われるため、歩行者推奨エリアにするなどで告知しつつ、外縁部に停めたら割引をするような施策を行政から商業の方々等を巻き込んで実行できれば、少し変わってくるのではと感じたところ。
- 車の総量を減らさないと、ウォークアブル構想はなかなか実現できない。
- 様々なアイデアをいただいたため、ニーズに合っているかの検討を進めながら今回いただいたアイデアを磨きたいと考えている。

- 歩行者優先エリアについては、歩行者だけしか通れないアーケード等と、一般車の流入を抑制するエリアの２段階に分かれるのではないかとすることは我々も認識しているため、ビジョンを策定する中で丁寧にお伝えすることと、その名称についても、今回いただいたご意見を踏まえ、（仮称）ウォークアブルビジョンの策定に活かしてまいりたい。

（円山委員長）

- （仮称）ウォークアブルビジョンの検討で名前や、エリアを２段階にするのかも含めて議論いただき、我々にもフィードバックしてもらいたい。

（玉野委員）

- 施策を考えて計画を進めているという話だったが、何かやってみるということが大事ではないか。
- この委員会には、いろいろな業界の方が駐車場をきっかけに街を良くしていこうと集まっている。熊本市が何かするのであれば、（委員会メンバーとして協力して）やってみる。
- 熊本市はアーケードがあるので歩行者優先ストリートはある。

その他の場所で、どこかで何かやってみようということであれば、荷さばき駐車場を整備してみたり、警察の方の了解が要と思うが、タクシーの乗降場を短期間だけでも動かしてみたりするなどしてはどうか。

何かやっていると、マスコミの方にも取上げていただける。それで、少しでも市民の意識の醸成ができるのではないかなと思う。

- 一旦やってみて、その都度良し悪しを磨いていくような機動的な取組が必要だと思う。
- コンパクトに、同じ方向を向いている方々と一緒に協力しながらできるものがあればいいと思うため、そういったものを視野にいれながら検討してまいりたい。

（西嶋委員）

- 社会実験には大賛成だが、行政主導の社会実験ばかりでなく、その地域主導の社会実験を増やす必要があると思うため、地域に対して、どんな社会実験ができるかをしっかり伝えていただきたい。社会実験を上手に増やしていただくことが重要と思う。

■まとめ

（円山委員長）

- 外縁部の財政支援からの方針転換は皆さんからご了解をいただいた。
- 財政支援をどうするかは、もう少し新しいものを見据えた支援があったらいいのではというご意見があった。
- ご意見を踏まえて、事務局で再度、今後の進め方を検討いただきたい。